

キャンパスアジア 北京大学留学報告(後半)

文学部人文学科現代文芸論専修課程4年 野中崇遥

キャンパスアジアプログラムにて、2019年8月末より北京大学元培学院に留学しております。後半1学期(2020年2月頭~2020年7月頭)が終了しましたので、報告をいたします。寮生活のことや大学・授業の雰囲気等については「キャンパスアジア 北京大学留学報告(前半)」に書きましたので、そちらを参照してください。

今回まず記さなければならないことは、私は新型コロナウイルスの影響で中国を脱出し、日本にしながら半年間オンライン授業を受ける形の留学となったことです。2019年12月に武漢で発生した新型コロナウイルスが世界各地に蔓延し、これを書いている今も世界中でとんでもない数の感染者・死者が出ています。今後世界がどうなるのか、誰にもわからない状態です。というわけで今回は、新型コロナウイルスをめぐって何があったのか、留学に際してどのようなトラブルが起きたのかといったことを、将来の教訓という意味もこめて書きます。授業については後回しにして、今回の新型コロナウイルスの流行で私のような留学生がどのような目に遭ってしまったのか、大学や教育をめぐる世の中の動きについて主眼を置きます。

○新型コロナウイルスの中国における急速な感染拡大

2019年12月に武漢で発生した、後にWHOによってCOVID-19と命名されることになる新型コロナウイルス。年明け早々には武漢で未知のウイルス性肺炎が広まっているということが日本のニュースでも報じられるようになっていた。このときはまだ、誰もこのウイルスが世界を破滅に導くものだとは予想だにしていなかったのである。

北京大学は1月初旬が試験期間であり、私は何の問題もなく試験を終えた。その後は冬休みであり、私は40日間の中国旅行に出かけた。現地の学生は大多数が実家に帰ったはずだ。

1月初旬はまだ中国各地で疫病が広まっていたわけではなかった。しかしながら気づけば武漢で猛烈に感染爆発が起こり、1月下旬には武漢市全体がロックダウンされるに至った。このときには武漢以外の都市、たとえば広州や深圳などでもかなりの感染者が出始めていた。疫病が中国全体に広まるのは時間の問題となっていたのである。

1月下旬、私はちょうど広東省にいた。広州では、地下鉄で検温等が行われ、外出する人はたいいていマスクを着用していた。自分のいる都市が封鎖されるのはもはや時間の問題であった。私は1月25日まで広州にいて、夜に北上して鉄道で衡山に行く予定であったが、衡山が閉山になったと知り、これ以上旅を継続することは困難であると判断した。ちょうどそのタイミングで東大のキャンパスアジア担当の先生方からも連絡があり、帰国を勧められた。いつ都市が封鎖されてもおかしくない状況でこれ以上旅を続けることは困難である

と感じており、一方で急な計画変更であったので、私はそのときいた韶関にひとまずとどまって考え直し、最終的に広州経由で北京に戻って荷物を回収してから日本に戻ることにした。他の日本人留学生もおおむね帰国を決断し、急遽航空券を手配して日本に戻った。

○帰国後の状況（ざっくりと）

帰国してすぐのころは、日本にはまだウイルスがほとんど侵入していなかった。感染者がちらほら出始め、その対応をめぐるいろいろな議論が出ていたけれども、それが後に全国で、いや世界で猛威を振るうことになるウイルスであるとは誰も予想していなかった。より正確に言えば、このウイルスが中国、特に武漢で大量の感染者と死者を生み出してはいたものの、それがどのようなウイルスで、どれほど恐ろしいものなのか、科学的なデータが出揃っていなかったのである（私がこの報告書を書いている今も、世界中でウイルスの治療法や感染症の症例研究が行われているが、依然として謎が多い）。

2月になると中国全土で猛烈に感染が広がっていた。日本の外務省は中国への渡航レベルを「レベル2」に引き上げた。これは原則として中国に渡航しないようにせよ、ということの意味する。これを受けて USTEP ではすべての中国交換留学が中止となり、キャンパスアジアもそれに追随する形で留学中止となった。

3月になると日本でも感染者が多数出始め、4月頭には緊急事態宣言が発令された。さらにヨーロッパ（当初はイタリア）、イランで感染者数が急増し、後にイギリスやアメリカでも感染爆発が起きた。ウイルスは全世界に広まり（パンデミック）、中南米・中東・アフリカ諸国にまで広がった。

○留学の中止について、またコロナによって明らかになったこと

中国を含め、全世界での留学が中止となった。春学期だけでなく秋学期も全世界での留学が中止となり、その他国内外でのあらゆるイベント（短期留学、国際交流など）も消滅した。少なくともこの1年は国外に出ることはまずもって不可能であり、学習の機会が壊滅的に失われた。留学がなくなったことは人生におけるあまりに大きな損失である。そもそも誰もが留学のために手続きなど多大な労力と時間をかけて準備をしていたわけであるが、それが無に帰したのである。留学のために払ったお金（1年間のビザ代や通信費など）も無駄になった。また留学の中止に伴い今後の学習計画や進路に大きな変更を要する（院進、就活など）。学生時代に留学することはかけがいのない経験である。それがなくなったのであるから、ショックは計り知れない。

授業がオンラインとなったのは東大だけの話ではない。日本全国、いや世界中で大学の授業がオンライン化されていった。そこで授業料の返還を求める運動も起こった。キャンパス内に立ち入ることもできず、オンラインでまともな授業も行われていないのに、どうしてこんなに高額な授業料を払わなければならないのか？ 多くの大学生の苦しみ声である。

私自身帰国してから、日本の感染状況がかなりひどくなり、アルバイト等が一気に吹っ飛

んだ。実は今でもアルバイトの継続が困難な状況で、収入が激減している。急遽中国から帰国したこと、また後に北京に残しておいた荷物を国際郵便で発送してもらったこと、回収できなかった生活用品等を揃えなければならなかったことなどでそこそこの金銭的損失が生じた。一人暮らしの学生であれば、留学中断後に急遽また家を借りなければならなかったら、経済的損失はかなり大きい（しかも今度は東大が入構禁止となるので部屋を都内に借りる意味もなくなってしまうことになる）。

世の中のさまざまな物事がオンライン上で行われることになり、恩恵も大きい。しかしながらそうした状況に応じた社会のあり方の構築はまだまだこれからであり、社会構造の変革を含めて再考されるべきことは多々ある。また今回コロナウイルスをめぐって平気で飛び交った人種差別的言説やデマについて、人間がいかに愚かで、理性的な判断力を欠いた存在であるかがよくわかった。このような危難のときに、まったく科学的根拠、客観的事実を欠いた情報が伝播し、人間どうしが互いを貶めあうような行動をとるということが観察された。グローバルな世界と叫ばれる時代に、グローバル化がかえって異なるコミュニティの他者の存在を意識させ、見事に社会の分断を助長しているようだ。

最後に、本来の留学報告の趣旨であるともいえる今学期の（オンラインで私が勝手に受けていた）授業について書く。今後留学したい人、中国での学びに興味がある人にとっては、ある程度有益な情報となるかもしれない。当面留学というものの自体が困難であろうが、将来誰かがこの文章を読んで、こういうこともあったんだな、と思ってくれれば、私はもうそれでいい。

○授業について

私は以下の4つの授業を受講しました。いずれも中国語文学系（いわゆる中文系）の授業で、使用言語は中国語です。私の専攻は文学なので、本学期もやはりおもに文学の授業を中心に受講しました。

①「民間文学概論」

開講学部：中国語文学系、担当教員：陸連山、開講時限：月曜 13:00~14:50 (2単位)

この授業は、様々なジャンルの中国民間文学を取り上げその分類や内容、特徴、また民間文学作品の収集方法などを論じるものでした。民間文学とは要するに神話や伝説、労働歌など口頭で伝承されてきたあらゆる「文学作品」のことで、多民族国家であり遠大な歴史を有する中国には多種多様な民間文学の蓄積があります。それらを整理して理解しようというのがこの授業の趣旨です。授業は先生の研究調査の話などをふまえて行われており、教科書の誤りや問題点についても積極的に指摘するなど、非常に有意義な授業であったように感

じます。また漢民族以外の様々な少数民族の民間文学作品についても知ることができました。

具体的には、以下のような章立てで授業が行われました。

第一章 民間文学の概念と特徴

第一节 民間文学の概念

第二节 民間文学の基本特徴

第二章 民間文学の傳承者—民眾集團

第一节 民眾集團の種類

第二节 民眾集團と民間文学

第三节 优秀传承人

第三章 神話

第一节 神話の概念と性質

第二节 神話の分類と基本内容

第三节 神話思想と藝術価値

第四节 主要神話理論簡介

第四章 民間傳説

第一节 民間傳説の概念と特徴

第二节 傳説の内容と分類

第三节 民間傳説の研究方法与范例

第五讲 民間故事

第一讲 概念と特徴

第二节 民間傳説と民間故事の关系

第三节 民間故事の種類

第四节 民間故事の分類と内容

第六讲 歇后语，谚语，谜语

第一节 歇后语

第二节 谚语

第三节 谜语

第七章 民間歌謠

第一节 概念

第二节 民間歌謠の分類と内容

第八章 民間長詩

第一节 我国民間長詩の一般狀況

第二节 民間長詩の分類と内容

第九章 民間文学の田野採録

第一节 古代民間文学採録簡史

第二节 现代民间文学采录与研究简史

第三节 民间文学的田野采录与整理方法

じっさいは各節がさらに細かく分類されて、神話や伝説の種類が具体例を挙げながら説明されていきました。日本では「民間文学」なる授業や研究は限られていると思うので、文学を専攻する自分がこうしたジャンルの文学を学ぶことは非常に有意義でした。

②「中国当代文学作品（下）」

開講学部：中国語言文学系、担当教員：蒋朗朗、開講時限：月曜 18：40～20：30（2 単位）

この授業は、中国当代、すなわち 1945 年 10 月 1 日の新中国成立以後の中国のさまざまな文学作品を読み、その内容を解説していくもので、毎回指定された作品について授業内で解説が行われました。小説のみならず、散文と詩歌も扱われ、それらの違いについても議論がなされました。一つ一つの作品について、作者の紹介、作品の内容、表現の特徴、文学史的位置づけなどが解説されていきましたが、授業名が「中国当代文学作品」となっているように、きちんとそれぞれの作品を読んで自分なりに内容を味読することに重点が置かれていました。原語で文章を読むのは時間がかかり予習は大変でしたが、中国語で書かれた文章をじっくり中国語で読む時間は本当に貴重なものなので、毎回しっかり予習して授業に臨みました。扱われた作品はどれも中国文学史上重要なもので、じっさいどれも読んで非常に面白く、先生の解説も熱心で、非常に勉強になりました。時間をかけて中国語で読み、内容を吟味したそれらの作品は、しっかり自分のなかに吸収していくことができたように感じます。とても充実していました。本学期は先学期の続きで、1980～1990 年代の作品を読みました。1 年間の「中国当代文学作品」の授業を通じて多くの中国当代の小説・散文・詩歌を中国語で読み、中国当代文学をひととおりに学ぶことができました。これは留学で得られた非常に大きな収穫です。

具体的には、以下の内容が講義されました。

第一讲 八十年代以来的文学语境

第二讲 张洁《爱，是不能忘记的》

第三讲 王曾祺《受戒》《异秉》《陈小手》

第四讲 高晓声《陈奂生上城》，史铁生《我的遥远的清平湾》

第五讲 残雪《山上的小屋》，扎西达瓦《系在皮绳扣上的魂》

第六讲 阿城《棋王》，韩少功《爸爸》

第七讲 八十年代的散文 巴金《小狗包弟》，夏衍《甲子谈鼠》，余光中《我的四个假想敌》，梁实秋《忆青岛》，王曾祺《昆明的雨》

第八讲 八十年代新诗潮的诗人 北岛、舒婷、张枣、海子、韩东、西川

第九讲 九十年代以来的文学环境和文学状况 许辉《夏天的公事》

第十讲 苏童《棚车》，格非《苏醒》

第十一讲 迟子建《清水洗尘》，华飞宇《哺乳期的女人》

第十二讲 台湾与海外华语作家的小说 张大春《将军碑》，王瑞芸《姑父》

第十三讲 九十年代的散文 史铁生《我与地坛》，林斤澜《城墙》，刘亮程《住多久才算家》

第十四讲 九十年代的诗歌 西川《午夜的钢琴曲》，沈苇《一个地区》，王家新《帕斯捷尔纳克》

第十五讲 九十年代的诗歌 于坚《对一只乌鸦的命名》，翟永明《我策马扬鞭》，

また期中課題として余华《十八岁出门远行》を読みました。

③「中国現代文学（下）」

開講学部：中国語言文学系、担当教員：高遠東、開講時限：火曜 15：10～17：00（2 単位）

この授業は、中国現代、特に新文化運動期から新中国成立前の中国文学史を解説するもので、今学期は先学期の続きとして 30 年代初頭の左翼文学の誕生や革命文学論争のあたりから初めて、1930～40 年代の具体的な何人かの作家を中心に文学史が講じられました。具体的にどのような作家、思想、派閥が生まれ、どのような文学が生まれていったのか、当時の時代背景に即して解説がなされました。今回扱った作家の作品は長編が多く、中国語で読み切るのはほぼ不可能でしたが、日本にいながらオンラインで授業を受けていたので、書店や大学図書館で探して日本語の訳本を読みました。茅盾《子夜》，巴金《憩園》《寒夜》《家》，老舍《骆驼祥子》など有名な文学作品はひとつとおりに読破しました。また先学期扱った鲁迅《故事新編》も読みました。日本にいてかえって勉強が捗りました。ともかく 1 年間の「中国現代文学」の授業を通じて多くの中国現代文学史上の重要な作家・作品や文学思潮についてじっくり学ぶことができ、中国現代文学の知識をひとつとおりに身に着けました。大きな収穫です。

具体的には、以下の内容が講義されました。

第八讲 茅盾与三十年代左翼小说

第九讲 沈从文与京派小说

第十讲 巴金的小说

第十一讲 老舍的小说

第十二讲 曹禺的话剧

第十三讲 三十年代的诗歌创作 现实主义诗歌（臧克家）和现代主义诗歌（戴望舒，卞之琳）

第十四讲 四十年代的诗歌创作 七月诗派和九叶诗派，抒情诗人冯至

また期中課題として沈从文《丈夫》を、期末課題として张爱玲《封锁》を読みました。

④「中国民間文学」

開講学部：中国語言文学系、担当教員：黄卉、開講時限：水曜 10：10～12：00（2 単位）

この授業は①「民間文学概論」と同じく、中国民間文学について解説していく授業でした。内容は重複するのですが、「民間文学概論」とはまた異なった作品や分類法を用いて民間文学の解説がなされていることも多かったので、比較しながら複数視点で勉強するために、あえて同じ内容を扱っているこの授業を受講しました。

具体的には、以下のような章立てで授業が行われました。

第一讲 绪论

民间文学的定义和范围、民间文学的发生和发展、中国民间文学的基本特征、
中国民间文学的社会功能及其价值、民间文学与作家文学的关系

第二讲 神话

第三讲 民间传说

第四讲 民间故事

第五讲 史诗

第六讲 民间叙事长诗

第七章 民间歌谣

第八章 民间说唱和小戏

中国の各民族の様々な古典文学作品を中心に講義が行われたため、文学専攻であるにもかかわらず「民間文学」を学習する機会のない日本人の私にとって、やはりこの授業は有意義なものでした。

(以上)